

Ⅱ 障害者支援施設 久喜けいわ

平成30年度事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

(1) 生活介護・施設入所・就労移行・就労継続B型共通事項

ア 利用ニーズへの対応

○現員と利用率

平成31.3.31現在

事業名	定員	現員	利用率
生活介護	定員67名	現員67名	94.6%
施設入所支援	定員54名	現員54名	97.0%
就労移行支援	定員15名	現員7名	61.3%
就労継続支援	定員32名	現員36名	98.7%
短期入所支援	定員6名		91.9%

- (ア) 生活介護は、8月に1名利用者が増えました。
- (イ) 施設入所は、3月に女性利用者が右副腎がんのため亡くなりました。病状が表面化し治療を始めてから約二か月でしたが、職員も病気の治療が困難な人に対して、どのような支援をすればよいのか考えさせられました。
- (ウ) 就労移行は、新規利用もありましたが、定員がなかなか埋まらず、利用率が昨年度より約8%下がりました。
- (エ) 就労継続は、定員以上に受入れています、100%に届きませんでした。
- (オ) 短期入所は、長期利用している利用者があるためベッド数が空かず、利用希望に添えないことが多くありました。緊急性を考慮して優先順位をつけたり、グループホームや他法人に依頼して交互に利用できるようにするなど、より多くの希望に添えるよう努めました。

イ 人材の育成・定着

平成31.3.31現在

職種	人数	備考
施設長	1	
総務課長	1	
主幹	1	
事務員	4	障害者雇用1名
支援課長	2	生活 就労
主査	2	生活 就労
主任	6	生活介護・施設入所4名 就労移行・就労継続B型2名
生活支援員	36	生活介護30名 就労移行1名 就労継続B型5名
職業指導員	4	就労移行2名 就労継続B型2名
就労支援員	1	就労移行1名
目標工賃達成指導員	1	就労継続B型1名
清掃、営繕	2	
洗濯、清掃	3	障害者雇用3名
看護師	4	常勤1名 非常勤3名
管理栄養士	2	
計	70	

(ア) 実施した主な研修

内部	新任職員研修、中堅職員研修、主任・主査研修、虐待防止研修 アンガーマネジメント研修、定着支援研修、歯科保健研修
外部	新任職員研修、中堅職員研修、チームリーダー研修 サービス管理責任者研修、強度行動障害支援者養成研修 虐待防止研修、災害派遣福祉チーム員スキルアップ研修 国立のぞみの園支援者養成現任研修、福祉避難所訓練 関東地区知的障害福祉関係職員研究大会東京大会 摂食嚥下リハビリテーション初級・専門研修 施設ボランティア受け入れ担当者研修、 埼玉北地区自立支援協議会サービス管理責任者部会 福祉職員が知っておくべき基礎知識 罪を犯してしまった人の理解と対応

(イ) 権利擁護、虐待防止の意識を高めるため、セルフチェックシートを活用し、施設長との面談を行いました。日々の支援の振り返り、自分の支援が利用者の権利を侵していないかなどを考えるきっかけとなり、意識の向上に繋がりました。

(ウ) 内部・外部の研修に参加する機会をできるだけ増やし、専門知識や技能の向上に努めました。

(エ) 業務内容の整理や職員の動きなどを見直して効率化を図り、年次有給休暇取得の向上に繋がりました。

ウ 地域との共生

地域や施設の行事では、自主製品の販売やクラブ活動の発表などを通して、たくさんの方々との交流を図りました。

月	行事名
4月	清久さくらまつり、久喜市れんげ祭り、杉の子学園まつり
5月	清久運動会、フレンドシップデー、ラン&バーベキュー
6月	彩の国セルフまつり、ホットハートフェスティバル、りとるコンサート
7月	提灯祭り、天王様、久喜特別支援学校夏まつり
8月	啓和会盆踊り、セルフバザール、ニコニコデイサービス
9月	久喜地区平和と人権の集い、ふれあいスポレクフェスタ、オータムフェスタ
10月	西公民館まつり、ライオンズクラブ芋掘り、埼玉人権を考える集い 市民まつり、セルフバザール、100人ボランティア
11月	けいわ祭り、清久小まつり、食育まつり、彩の国ドリームフェスタ 雷電神社収穫祭、あやめチャリティフェスタ、見沼たんぼクラブ八ツ頭堀り、 いきがい大学ボランティア発表会、蓮田マラソン
12月	忘年会コンサート、餅つき、高齢者大学音楽祭
1月	ホットハートフェスティバル、白岡マラソン
2月	まなびすと久喜、バレンタインケーキ作り

エ 健康管理

- (ア) 利用者の健康状態については、細かいチェックの徹底と、看護師・栄養士との連携強化を図りました。職員間で情報共有を行い、多角的に検証することで疾病の早期発見に努めました。
- (イ) 利用者・職員の健康診断を5月と11月に実施しました。医師の所見で指摘があった利用者については医療機関に通院し、治療や日常生活のアドバイスを受けるなど、早期対応に努めました。
- (ウ) インフルエンザ対策としては、手洗いうがいの徹底のほか、予防注射の接種を実施しました。手洗いうがいについては、嫌がったりうまくできない利用者もいますが、根気強く繰り返すことで習慣となるよう続けています。
- (エ) 久喜市歯科医師会共催のもと、10月に歯科検診・ブラッシング指導、3月に歯科の講演会を行いました。普段、歯科通院が難しい利用者の口腔内検診と、利用者一人ひとりに合ったブラッシングの留意点を確認することができました。

オ 危機管理及びリスクマネジメント

- (ア) 施設内の危険個所の点検を行い、事故に繋がりそうなものに対しては迅速に修繕を行いました。建物設備の老朽化が進んでいるため、日常的な点検とこまめな修繕を行う必要があります。
- (イ) 他害行為のある人に対しては、本人の障がい特性を理解し、不安や混乱のもととなる要素を取り除く支援を行いました。

(2) 生活介護・施設入所支援

ア 日常生活支援

- (ア) 作業療法士の訪問指導では、歩行や運動機能、食事摂取などに課題がある人への対応についてアドバイスを受け、個々の支援に生かしました。
- (イ) 生活支援マニュアルに基づきながら、一人ひとりにあった丁寧な支援を行うことに努めました。

イ 環境整備

- (ア) ベッドからの起き上がりや移乗などが難しくなった利用者に対して、電動ベッドを用意したところ、本人もスムーズに起き上がるができるようになり、職員の身体的負担も改善されました。
- (イ) 破損個所や不具合が生じた場合は速やかに修繕を行い、事故防止に努めました。

ウ 日中活動支援

- (ア) 一人ひとりの趣向に合わせ、得意なことを伸ばす活動を行いました。特に創作活動に力を入れ、絵を描くことが好きな人たちの活動を定期的に行いました。出来上がった作品が地域の作品展に展示されるなど、利用者の生きがいに繋げることができました。
- (イ) クラブ活動では、マラソンクラブ、音楽クラブ、登山クラブが、各々計画

に沿って活動を行いました。けいわでは利用者の高齢化が進んできており、活動内容やメンバー編成を検討しなければならない時期に入っています。

エ 余暇支援

- (ア) 利用者の意向を取り入れ、映画や買い物、外食など、楽しめる余暇の提供を行いました。生活の中に楽しみを作ることで生活に張りができ、モチベーションの向上にも繋がりました。
- (イ) 日帰り旅行は、大型バスを利用する旅行のほか、公用車を使用して近くで楽しめるものも計画し、それぞれの要望に添えるようにしました。

月 日	行き先	利用者	家族	職員
5月15日	所沢航空記念公園（公用車）	5名	0名	4名
6月12日	浅草観光（電車）	5名	0名	4名
7月10日	葛西臨海水族園（観光バス）	16名	7名	7名
9月11日	那須ハイランドパーク（公用車）	5名	2名	4名
10月9日	日光江戸村（観光バス）	13名	2名	7名
2月14日	藤子不二雄ミュージアムと中華街（観光バス）	13名	5名	7名

オ 行動障害のある人への支援

- (ア) 対応の難しい行動障害のある人への支援として、強度行動障害支援者研修への参加やケース会議を行い、本人の特性の理解や支援技術の習得に努め、日々の支援に活かしました。対応に苦慮することもありましたが、その都度職員間で話し合い、全体で協力して支援に臨んでいます。
- (イ) 地域生活定着支援事業により受け入れた短期入所の利用者で、他害行為が激しく、対応に苦慮しているケースに対し、援護地・支援センターと支援の在り方について協議を進めてきました。障害特性の理解や、定着支援事業所の研修会などにも参加し、支援の方向性を模索しながら支援にあたりましたが、問題行動を減らすことはできませんでした。法人内での協議を進め、けいわの利用は難しいとの判断に至ったことと、本人の希望として、「生まれ育った地域に戻って暮らしたい。」との訴えが強かったことから、出身地域で安定した生活を送れる場を作れるよう協議を進めました。

カ 高齢化への支援

- (ア) 平均年齢が48.3歳となり、45歳以上の利用者が約70.5%、70歳以上の利用者は5名になりました。
- (イ) 生活全般に渡り、細かな体調管理が必要な人に対しては、毎日バイタルチェックを行いました。特に排泄関係や筋力低下の課題が増え、今後は医師とも相談しながら日常生活の中に医療的支援を組み込む必要性を感じています。
- (ウ) 身体的な機能が低下してきている利用者も増え、設備や医療的な支援体制も含め、けいわで提供できるサービス内容や、必要があれば高齢者施設などへの移行なども検討し、支援の方向性を決めていく時期にきています。

キ 地域移行

今年度は男性棟利用者1名が、グループホームでの食事や入浴を体験しましたが、その他には具体的な取り組みを行うことが出来ませんでした。地域

への移行に関しては、家賃の問題や家族の理解など、解決が難しい場合もあり、本人の要望や施設側の思いだけでは進められないケースも多くなっています。

(3) 就労移行

ア 新規利用者の開拓と利用率の維持

利用率	61.3% (前年度69.4%)
契約解除	11名 (就職4名※、就労継続B型に変更5名、他事業所(就労継続B型)2名)
新規利用	5名

(ア) 就労へのニーズが減少傾向にあり、新規利用者の受け入れが伸び悩んだため、利用率が上げられませんでした。

(イ) 契約解除した11名のうちの4名は、就労移行事業の支給期間の満了を迎え、就労継続B型に移行しました。

イ 就労支援

(ア) 2名の利用者が、一般企業での短期訓練・トライアル雇用制度を使って、職場で働く体験を行いました。

(イ) 企業実習または一般就労する利用者に対して、事前オリエンテーション、面談の練習、通勤訓練等を行いました。

(ウ) 2週間に1回程度、就労に向けた体力作りを目的とした運動を、機能訓練棟で行いました。

ウ 就職者に対しての継続的な支援

就労支援センターと協働で職場定着のための巡回等のアフターフォローを行いました。平成30年度に就職した4名は継続して働くことができています。

※平成30年度就職先(就労移行)

就職者	会社名	仕事内容
男性(20歳)	太平電業(株)	モルタル球製造
女性(24歳)	キューピー醸造(株)	サンプル充填、発送作業
男性(21歳)	流通サービス(株)	倉庫内作業
男性(30歳)	(社福)啓和会	洗濯業務

(4) 就労継続B型

ア 工賃増額

年度	平均工賃(円)	工賃総支給額(円)
29年度	14,985	6,219,036
30年度	14,444	6,225,443

(ア) 単価の低い作業を見直し、新しい実習を始めたことで工賃総支給額は増加しましたが、利用者数も増えたため、平均工賃額は若干減少しました。

(イ) けいわ味噌や餃子については、管理栄養士と協力し、品質管理の強化に

努め、品質の安定につながりました。

(ウ) 就労継続B型出張所である「きっちんこすもす」は10月末日で廃止をしました。味噌・餃子を販売しましたが、利益を出すことは難しい状況でした。

イ 就労支援

平成30年度は、就労継続B型から就職した利用者はいませんでした。

ウ 様々な体験活動の提供

行事、土曜開所のレクリエーション等の活動を通して社会経済活動への参加の機会を提供しました。

平成30年度 土曜開所 活動一覧

月	就労移行	就労継続
4月	ボーリング(ビバモール加須)、さいたま水族館	運動・カラオケ(機能訓練棟)
5月	長瀬(宝登山)	東武動物公園
6月	映画鑑賞(モラージュ菖蒲)、菖蒲公園散策	
7月	調理実習「たこ焼き&お好み焼き、かき氷」	カラオケ(まねきねこ)
8月	盆踊り	
9月	カラオケ(まねきねこ)	体操・音楽レク(機能訓練棟)
10月	久喜市民まつり	
11月	啓和まつり	
12月	DVD鑑賞と鍋パーティー	ゲーム・音楽レク(機能訓練棟)
1月	カラオケ(カラオケマック)	ボーリング(ビバモール加須)、環境科学学習センター カラオケ(カラオケマック) ※2グループに分かれて
2月	映画鑑賞(モラージュ菖蒲)	空手護身術・音楽レク(機能訓練棟)
3月	日帰り旅行(群馬サファリパーク、こんにやくパーク)	